

肺炎球菌ワクチン

平成 28 年 10 月放送

大門 和

市から郵送物が届いて封を切ったら、肺炎球菌ワクチンの案内でした。私も六十五歳になっていたことに改めて気づきました。世界保健機構（WHO）では、この年齢から高齢者というらしいのですが、いまだその実感が無いのは喜んでいいのか悲しんでいいのかわかりません。本題から外れて申し訳ありませんでしたが、なぜ今高齢者を対象に、肺炎球菌ワクチンをおすすめしているのか、その理由をお話しするためでするのでご容赦ください。それは、若い方の肺炎と比較して、ご高齢の方が、肺炎にかかった場合には、重症化して命にかかわることが圧倒的に多いからです。特に、体力が落ちて日常生活に支障を感じている方や慢性疾患の持病を持っている方は肺炎になりやすく、治りにくいものです。その予防のためのワクチンです。それでは、このワクチンは万能なのでし



ょうか？もちろんそうではありませんが、肺炎球菌ワクチンをおすすめする理由はもう一つあります。肺炎を引き起こすウイルスや細菌は数えきれないほどあります。小児科では、今年、マイコプラズマという菌による肺炎が大流行しています。大人にもうつりますから、油断はできません。しかしこの肺炎は、一般的には軽い症状で済み、効き目の良い飲み薬もあります。ところが、ご高齢の方が多いのは肺炎球菌による肺炎です。菌の病原性が強く、肺炎も重症化しやすく、命にかかわることも少なくないのは先に述べたとおりです。いろんな原因の肺炎があるけれども、せめてこの肺炎球菌による肺炎だけは、予防できるものな

ら予防しておきたい。それが、肺炎球菌ワクチンをおすすめしている理由です。特に、食事の時にむせやすかったり、寝たきりの場合には、誤嚥性肺炎を起こしやすいので、その予防は大切です。また、インフルエンザの流行する季節には、インフルエンザ感染の合併症として肺炎球菌による肺炎を併発しやすいと言われており、インフルエンザワクチンと一緒に接種することもできます。2年前から、自治体の公費助成で、65歳から5歳間隔で肺炎球菌ワクチンが打てるようになりました。ワクチンの効き目は5年間有効とされています。5年後にもう一度うつことが可能ですので、2回接種すれば、10年間以上は予防効果が期待できます。ただし、自治体の助成があるのは、案内があった時一回だけですので、機会を逃した場合は全額自費となります。もちろん私も、高齢者の仲間入りをしたので、この機会を逃さず肺炎球菌ワクチンをうちました。